



佐渡演習林の杉：崎尾 均先生 提供

朱鷺：本間航介先生 提供

松涛

№.25

2009. 3. 5

主な記事

学部長挨拶	2
同窓会長挨拶	3
活動報告及び活動計画	4
農学部を去るにあたって	5
支部だより	6
職場紹介 佐藤食品工業株式会社	8
特集 朱鷺の舞う佐渡からのメッセージ	9
特集 中越大震災復興集落との交流企画	10
ペンリレー 同窓生からのたより	11
農学部フォーラム	12
国際交流	13
学部だより	14
松涛アンケート分析	16

学部長挨拶

農学部長 大山卓爾



新潟では、中越地震、中越沖地震と大きな地震が続いていますが、今年5月から農学部B棟の耐震改修工事が行われることになりました。続いて、A棟、C棟も耐震工事を行う予定です。耐震改修といっても、骨組み以外は全面的に改築しますので、着工から完了まで半年以上かかる予定です。今回は、同窓会室も含まれるためご迷惑をおかけするかもしれませんが、教職員、学生、院生の安全確保のためにご理解をお願い申し上げます。

農学部では、一昨年の平成19年入試では、前期日程の受験倍率が2倍を切り、危機的状況に陥りましたが、平成20年の入試倍率は、全学的に入試倍率が低下した中、唯一農学部が受験倍率を増やす事ができました。引き続き、オーブンキャンパス、高校等への

説明会や模擬授業にも学部をあげて真剣に取り組んでおります。また、現在、農学部紹介DVDを作成中です。さらに、教員の研究状況を農学部のホームページに魅力的に紹介する予定です。同窓会の皆様からも、ご家族、お知り合いに受験生がおられましたら、農業、農学の大切さや農学部の良いところをお話し頂き、ご入学をお勧め下さい。

最近の農学部の話題をいくつか紹介させていただきます。今年3月で、園芸学の新興芳二教授、林学の竹内公男教授が、定年で御退官されます。お二人からは長年にわたる農学部の教育、研究、管理運営に多大なご尽力を賜りました。心より感謝申し上げますとともに、今後のますますのご健勝をお祈り申し上げます。

一方、昨年は、新任の先生を多く迎える事ができました。米の品質や、加工が専門の大坪研一先生は、赴任早々から、世界で一番受けた授業をはじめ、テレビや講演会に多数出演されています。崎尾均先生は、佐渡ステーション

教授として赴任され佐渡に常駐されております。また、新潟農場には岩本嗣先生が、農業生産科学科には高田良三先生、渡邊肇先生が、応用生物化学科には、小島康夫先生が、生産環境科学科には大橋慎太郎先生がお見えになり活躍されています。

新任の先生方だけでなく、本年度は、科学研究費補助金や農水大型研究費の獲得、大学院教育「食づくり実践型食と農のスペシャリスト養成」プログラムの採択等、農学部の先生方が大活躍しております。学生の就職率でも週刊誌読売ウイークリーの調査で全国農学部第一位に認定されました。

佐渡関係では、本間航介先生や関島恒夫先生がこれまで地道に行ってきたトキの復帰プロジェクトが、新潟大学全学のプロジェクトに格上げされました。昨年9月に、これまで舎内で100羽程度に増えたトキのうち10羽が放鳥され、その後の定着が期待されています。また、写真家の天野尚さんが演習林の天然杉を美しい大判写真でご紹介頂き一躍注目を集めています。

農学部の国際交流も活発に続けております。昨年の9月にはモンゴル国立農業大学から、50周年記念にご招待を受け、国際交流委員長の中野和

弘教授と参加して参りました。また、堀秀隆先生をはじめ農学部の先生方が、微生物農業プロジェクトの会合を昨年12月にハノイで開催し、アジアとアフリカの研究者との交流会がもたれました。また、同12月にフードサイエンスセンターの企画主催により、米の世界的研究者を農学部にご招きし、世界の米の現状を紹介して頂きました。さらに、教員だけの交流ではなく、今年の1月には、マレーシアで

新潟大学全学同窓会交流会報告

幹事長 阿部信行

20年11月1日に、ホテル新潟を会場に、新潟大学全学同窓会交流会が開催されました。講演会では、新潟大学超域研究機構白石典之教授の「チンギス・カンに学ぶ地球環境問題ーモンゴルのフィードバックー」、石澤良昭上智大学長の「天空の寺院アンコール・ワットー歴史を塗り替える仏像発掘ー」との2題が講演されました。一般の方も入場でき、ホテルの会場はびっしりで盛況でした。続く懇親会では農学部が進行を努め（三沢先生）、下條学長の挨拶後、各学部の同窓生が一同に集ま

今年初めて開催される世界農学部学生シンポジウムに農学部から3名の学生（いずれも3年生の女子学生）を派遣しました。今年の9月には、農学部との交流協定を結んでいる大学から先生方を御招きし、第3回国際シンポジウムを新潟（朱鷺メッセ）で開催する予定です。お時間がありませんでしたら、同窓会の皆様も、ぜひ、講演会、懇親会にご参加下さい。

り、それぞれが懇親を深め、有意義な時を過ごしました。今回、新潟大学のイメージソング、耳をすませば（笹川美和さん）も披露されました。色々な機会に新潟大学がより宣伝されるようにしていきたいと思っています。

一方、来年は新潟大学創立60周年にあたり、全学同窓会では、記念事業の一環としてアースコンシャス・フォトコンテストを行うことも決定しています。アースコンシャスとは「地球環境や自然の保護に重点を置く」とする考え方や行動の意味です。

会長挨拶

同窓会長 進 藤 隆



会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

私は、7月19日の総会で小林前会長より会長を引き継ぎました昭和41年3月農学科(作物学研究室)卒業の進藤隆と申します。4期16年間農学部同窓会並びに新潟大学全学同窓会の創立に多大なご貢献をされた小林前会長に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。微力な私ですが皆様のご指導ご協力をいたたく中で母校と同窓会の発展に努力いたしますのでよろしくお願いいたします。

農学部の方の活躍は著しく、今年度は農林水産省公募事業で全国の大学で15件採択され、新潟大学3件のうち

農学部の大坪・児島両教授の2件が採択されました。また、文部科学省の大学院教育改革支援プロジェクトでは農学部と歯学部と一緒に採択されました。これは新潟大学では初めての採択です。一方、地域との連携では新潟大学トキブロジェクトでも農学部の先生方が主要メンバーとなっております。種の成果を上げております。

さらに、産官学共同事業では附属農場生産米で醸造した「新雪物語」等の成果を上げています。学部の評価は施設設備の充実度や応募者数の多少ではなく、いかに有為な人材を多く輩出するかであると思います。

創立50周年事業の学術振興資金は、先生方や学生の国際交流・各種活動の一助となっております。同窓会として母校のさらなる発展のために学術振興資金の確保やキャンパスの環境整備にどのように協力できるか検討を進めてゆき

たいと思います。

平成21年は新潟大学創立60周年を迎えます。大学・全学同窓会では各種記念事業を計画しておりますので是非ご参

加ください。

会員の皆様の益々のご健勝とご発展を祈念し、会長の挨拶とさせていただきます。

平成20年度総会および懇親会報告

平成20年度総会実行委員長 山本 仁 志

新潟大学農学部同窓会第五回総会および懇親会が、去る七月十九日(土)にチサンホテル&コンファレンスセンター新潟(旧ワシントンホテル)の越後の間で、下條新潟大学長、大山農学部部長のご臨席をいただき、開催しました。

農学部同窓会として発展してきました。

近年、新潟大学も世代の波とともに法人化され、このようなかで、小林一三氏初め、旧役員のご尽力により、新潟大学全学同窓会が三年前に発足しました。新潟大学全学同窓会は、人文系学部、理工農学部、医歯系学部、旧商短、そして新潟大学教職員、関係者の校友会の十学部・団体で構成されています。新潟大学全学同窓会は新潟大学のサポーターとして、新潟大学の発展に寄与する重要な一翼を担いつつあります。

今回、農学部同窓会は、新しく新役員進藤隆会長、阿部信行幹事長の船出と成りました。

総会は田伏十四夫氏の司会で開会され、十六年間の功績に感謝して小林一三氏に感謝状を贈呈し、渡邊広治議長が活動報告等の議事を進められ、講演会へと移りました。

講演会は藤村先生の講師紹介、東海大学医学部の竹腰正隆先生(昭五十五卒)が「植物によるヒト抗体の産生」と題して、医薬品は、今まで動物で行うのが一般的でしたが、新しい発想で植物培養を応用して生産する医薬品原形の一つについて講演されました。懇親会は粟生田先生の司会で開宴しました。テーブルの上には大学のお酒「新雪物語」と「遊休農地対策ビール」ムギプロジェクトチームによる新潟市西蒲区(旧巻町)の遊休農地で収穫された大麦の地ビール「産学官連携ビール」が置かれました。また、北海道支部の五十嵐龍夫氏から懐かしい写真が上映されました。司会の声かけで、農学部学生歌「飯豊の山に白銀の遙かにけぶる春あけて・・・」の大合唱をもって散会しました。

前執行部活動報告

(2004年度～2007年度)

常任幹事会の決定に基づき、以下のような事業を行った。

1 2006年に全学同窓会が発足し、その設立、および設立後の運営に協力してきた。

機関誌「雪華」の寄稿、発送への協力、カード事業(新潟大学カード)会員(ゴールドカード)、学生(シルバードカード)、新潟大学・全学同窓会交流会への参加。

役員 小林一三理事、山本仁志運営委員会副委員長、小島誠委員・三沢眞一委員

2 名簿の発行
2006年に名簿発行を決定し、2008年に発行、個人情報保護法の関係で掲載許可を問い合わせしたが、許可が少なく空白の多い名簿になってしまった。これが最後の名簿になるかもしれない。住所の補足率は逝去者を含めて約8・5割程度である。

3 構内の庭整備への支援
嵐丘庭にある木の剪定や草刈などの補助を毎年行い、構内美化の支援を行ってきた。

4 農学部同窓会ホームページの立ち上げ
会員への速やかな情報の提供のために2005年度にホームページを立ち上げ、年々充実させてきた。

5 学術文化活動への支援
農学部フォーラム、文化講演会(近藤亨氏の講演)などへの支援を行ってきた。ただ2006年からこれらの支援は農学部後援会から行われるようになった。

6 機関誌「松濤」の発行
編集委員の奮闘で年々充実した内容になっている。一部は全学同窓会誌へも転載されている。

7 受験者増対策支援
受験者を増やすために、教員が高校に出向いて行う出前講義や学部説明の旅費を支援した。(2007年度)

8 支部活動の支援
支部の要請がある場合には本部から役員が出向いた。

2006年 長野支部・三沢幹事長
2007年 首都圏支部・北海道支部・三沢幹事長
2008年 首都圏支部・大山農学部長 富山県支部・三沢幹事長

9 新潟TLQ(株)への出資
基金より3,000,000円の出資をおこなった。

その他、役員の交替と総会の開催。会長交替に伴い、役員も大幅に交替した。これに伴い第5回の総会を企画した。

2008年度活動計画

昨年度は、名簿の刊行、総会の実施と大きな行事を終えましたので、学部同窓会の動きとしては、平年並みに戻るかと思っています。とはいえ全学同窓会も大学を盛りたてて

め活発に活動しております。新役員体制になりましたのを機会に、全学同窓会に協力しながらも、若い世代の同窓生にも農学部同窓会に関心を

持つてもらえるような活動を模索しながら活性化に努めていく必要があるかと考えています。

2008年度は、以下の活動に取り組みます。

1 「松濤」25号の発行
今年も充実した内容で発行します。

2 同窓会ホームページの充実
新しい情報を掲載し、読まれるホームページをめざします。

3 学内諸行事における同窓会活動のPR、環境美化などへの支援
学内諸行事で同窓会活動を積極的にPRする。

4 学術・文化活動への支援
農学部や各学科が行う学術・文化活動に支援。

5 よりよい学生に入学してもらうための施策に支援
「高等学校での出前講義」や「高等学校での学部説明会」に旅費を支援の継続。

6 全学同窓会への協力
運営委員会への参加、カード入会事業の協力、大学との懇談会や交流会の参加、機関誌「雪華」の発送など全学同窓会と足並みを揃えた活動を行う。

新潟大学農学部同窓会役員名簿 (平成20年～平成23年)

平成20年10月

事務局	松涛編集委員会										役職		役員及び監事等		職域幹事		在校幹事																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	委員長	委員長	委員長	委員長	委員長	委員長	委員長	委員長	委員長	委員長	副会長	顧問	名誉会長 (農学部長)	卒業回	氏名	卒業回	氏名	卒業回	氏名																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	40	37	36	34	31	30	30	27	35	35	29	29	26	25	19	14	16	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	29	29	26	25	19	14	16	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	20	16	15	12	6	3	14	9	6	35	35	25	25	2

農学部を去るにあたって



出 会 い

新 美 芳 一（農生産科学科）

いよいよ新潟大学を退職する
ときがやって来ました。約三八
年間、新潟大学で働くことが出
来たことに感謝しております。
卒業生ならびに本学・農学部の
教職員の皆さん、ありがとうございました。

は美しい光景でした。過去を振
り返るとき、人は嫌なことは忘
れ、よいことばかりを思い出す
とはこのことかもしれません。
これは私が新潟に住んで経験し
た「出会い」の一つです。

一九七一年（昭和四十六年）三
月初旬に新潟に着任したときの
ことを今でも鮮明に覚えていま
す。その日は日本海から吹き付
ける猛烈な風と雪と砂が私の顔
の頬にびしびしと当たり、その
時初めて「砂に混じって横から
降る雪があるのだ」と思いまし
た。「大変なところへ来てしまっ
た。それが当時の偽らざる気持
ちでした。私の借家は現在の新
潟大学の近くでした。当時の五
十嵐キャンパスには教養部と理
学部建物のみであったと記憶
しております。もちろん、当時
キャンパス周辺は個人住宅等も
まばらで、まさに五十嵐砂漠と
言われるに相応しい環境で、シ
ベリアから日本海を渡ってくる
冷たい風がほとんど毎日吹き荒
れていました。このようなかつ
て経験したことがない強風と横
なぐりの雪もやがて春になると
おさまる、この五十嵐の丘のあ
ちこちの畑には美しいチュー
リップが咲き乱れていました。
今では想像できないようなそれ

いろいろなことを教わってきま
した。本学助手に採用される前
にも私の考え方や進路に影響を
与えた方々は多くおられます
が、新潟大学で働いてきたこと
により、多くの教職員の方、と
りわけ研究室で多くの学生の
方々と出会い、それが私の仕事
にも関連しています。着任後の
ここでの最初の仕事は「チュー
リップの種子発芽」です。これ
は私が学生とともに得た初めて
の研究成果で、のちにチュー
リップ鱗片からの子球形成の仕
事に役立っています。この学生
との「出会い」がなければこの
ような成果は得られなかったか
もしれません。その後三〇年以
上にわたってヒメサユリの仕事
をやっています。これも私が新
潟大学で働くことになり、会津
出身の学生と河渡の農学部園芸
学研究室で出会ったことがきつ
かけとなっていました。この学生
に福島県西会津町に案内してい
ただき、初めてみたヒメサユリ
の美しさにみとれ、何とかこの

ユリを保護しなければ」という
気持ちから、このユリの研究が
始まりました。このヒメサユリ
を材料に研究を続けてきた結
果、その後も多くの農家の方や
このユリに関心をもつ方々にお
会いし、今でもお付き合いして
いただいております。

このように、私は「出会い」
に運命的なものを感じます。当
たり前のこととはいえ、「この学
生がこの農学部に入學してきた
から、そして私がこの大学で働
いているから、この人たちに会
うことが出来た。もしこの学生
が他大学に入學し、私が他大学



学生と巡った新潟の林業と森

竹内 公 男（生産環境科学科）

昭和五五年七月に農学部に出
任して以降、卒論を通して多く
の林業・木材関連セクターと森
や里を訪れました。学生諸君に
は卒論限りの調査だったかもし
れませんが、私にとつては自分
の研究の軌跡を示すものとなっ
ています。

大まかに三つの期間に分けま
すと、第一期は林学科林業経営
学講座での一〇年九月まで。
まず学生実習地を求めて山北町
に通信始めましたが、この県下
第一の林業地の状況は、私が日
本の林業を考察する際の重要な
基礎になっていきます。新潟市近
郊の弥彦・角田山麓の林業にも
目を向けましたが、林業活動の
実態はほとんど見られませんでした。
里山にはスギ林が沢山あるのに

や企業等で働いていれば、私は
一生この人達に会うことはな
かった」と常々思っています。
本当に「出会い」は不思議なも
のです。だからそれを大切にし
たい。退職後のあらたな「出会
い」とともに、今までの卒業生
の方々と「出会い」を宝物とし
て、卒業生の方々は今後もし
出来るだけ長くお付き合いして
いただきたいと思っています。
よろしく願います。

後の一〇年間です。林業や森林
をテーマとする卒論はそれまで
と同様に続けましたが、それを
志向しない学生の希望との折衷
に悩みました。そのような場に
巡りあわせた学生には卒論が中
途半端なものになったと思いま
す。その中で長野県穂高町での
森林療法の活動に接したことは
大きな収穫であり、森林利用の
新しい可能性を知ることができ
ました。また、森林認証の国際
的な取り組みが日本に導入さ
れ、さっそく卒論テーマに取り
入れました。

大部分が休眠状態ですので、何
とか活用する道を見つけたいま
のと思っています。森林の保健休
養機能への関心が高まったこと
を反映して、五頭自然休養林、黒
川村リゾート施設から新津・加
茂丘陵、魚沼地域、富山市周辺
の自然公園づくりまで調べて回
りました。多くの公園で植栽木
や木造施設が年月の経過ともに
に管理放棄されていたのは寂し
いことでした。林学科と県が協
力した豪雪地帯広葉樹林の調査
を契機として魚沼地域に足を運
ぶようになり、二次林の推移と
地域振興の活動を調べて回りま
した。単発的には、佐渡の椎茸
栽培と県下の神社境内林の調査
もやりました。

第三期は再改組に伴って森林
管理科学と生産環境科学の二
コース創設後の八年間です。特
に森林コースにJABEEという
目標が設定されたことで、私に
は一〇年間の閉塞状況を打破し
たという思いがありました。従
来のテーマに加えて、上川村の
木質ペレットボイラー導入に関
わったのを契機として木材のエ
ネルギ利用の研究を取り込み
ました。

第二期は生産環境科学科・生
物生産情報学講座に改組された

私の研究の一端に参加してく
れた学生諸君と資料収集にご協
力いただいた皆様に心から感謝
申し上げます。また、在職中に
暖かく接していただいた農学部
の皆様に厚く御礼申し上げます。

支部だより

◆首都圏支部

新潟大学農学部卒業生の皆様
こんにちは。首都圏支部平成20
年度活動報告を致します。

第22回新潟大学首都圏同窓会
農学部会を平成20年6月7日
(土)12時~14時(於:新宿中
村屋)で開催しました。今までは
金曜日の夜の開催でしたが、
近県会員の参加を増やす目的も
あり初めて土曜日開催としまし
た。群馬県(2名)、静岡県(1
名)を含め26名の会員の参加が
ありました。

本年の講演は中澤博司氏(農
化昭46年卒 サッポロビール
(株)勤務)にお願いし、演題
「ビールの蘊蓄(うんちく)」で
お話を頂きました。
ビールの基本的な取り扱い方

をはじめ、ビールを美
味しく飲む方法、最後
は適正飲酒でお酒は
楽しく健康的にで締
められ「のんべい」に
はたいへん楽しく参考になる講
演でした。

引き続き総会に移り大学より
大山農学部長をお招きし最近の
大学の近況また農学部の活動状
況のお話を頂きました。新
潟県と農林業は切っても切れな
い関係にあり、新潟大学農学部
がその中心的な役割を果たして
いる事が分かり頼もしくも感じ
ました。

大山先生ご多忙にもかかわらず
ご出席有難うございました。
出席者を代表し御礼申し上げます。
また、首都圏同窓会より来
賓として鈴木首都圏同窓会事務
局長、黒瀬新潟大学東京事務所
教授のご出席を頂き、鈴木事務
局長よりご挨拶を頂戴致しまし
た。

その後定例の会計、監査、活
動報告の後、懇親会に移り出席
者同士旧交を温め、現状を語り
合うなど終始楽しい一時となり
ました。最後は恒例の「四季の
新潟」の合唱でお開きとなりま
した。

しくお願い致します。
会の出席者の減少が幹事の悩
みです。どうか首都圏在住の会
員の皆様ご参加をお願い致しま
す。

また、全学首都圏同窓会では、
納涼会(第25回)が開催され
(平成20年8月22日(金)於:
ウッドラーク新木場)出席57名
(内農学部8名出席)でした。
本年度の全学首都圏同窓会総
会(第37回)は理学部が幹事学
部で開催され(平成20年10月31
日(金)於:東京ジョンブル丸
内)出席74名(内農学部7名出
席)でした。本総会では毎年各学
部が回りをもちて幹事を務めてお
り、平成23年(3年後)は我が
農学部が幹事となります。是非、
全学同窓会へもご参加お願いし
ます。

最後にになりましたが農学部会
員の皆様どうかご支援お願い致
します。

◆北海道支部

村上 哲昭(昭50林)

本年度12回目を迎える新潟大
学農学部北海道同窓会総会は、
10月18日(土)に十勝管内の帯広
市にほど近い十勝川温泉、「かん
ぼの宿十勝川」で開催されまし
た。

今回の会場は、会員が比較的
多く、道東や札幌方面とも交通
のアクセスが良い十勝管内とし
ました。

当日は、帯広市とその周辺在
住者を中心に、9名(うち女性
1名)が集まりました。

さて、当日は温泉で一汗流し
た後、午後5時30分に総会を開
催しました。
紺谷会長は所用で欠席したた



め東条副会長
が挨拶を行い
ました。

引き続き五
十嵐が平成20
年度経過報
告・同窓会常
任幹事会報
告、会計報告
を行いました
。常任幹事
会報告では、
役員改選や農
学部の入試競
争率の動向な
どについて報
告致しました
。

平成21年度事業・予算案を協
議し、本部から来賓出席の場
合の旅費助成額などを決定し
ました。

本年は役員改選の年で、新役
員を決定したほか、顧問の就
任規定なども検討しました。尚、
新役員の平均年齢はかなり若返
りました。

その後、総会に続く宴会では、
地元の養島さんの乾杯の後、2
時間余り語り合いましたが話が
はずんでしまい、改まって近況
報告などをしないままに宴会を
終わってしまいました。

ここで2名が帰られ、残った
7名は部屋での二次会となりま
したが、賑やかなひとときとな
りました。

19日の朝は曇っていました
が、今回も、石塚新副会長から
提供のあった広尾産の「海の幸」
を手にとり、それぞれ帰途につきま
した。

◆秋田支部

五十嵐龍夫(昭51農)

近年秋田県では、全国レベル
の各種大会が続けて開催されて



◀注▶ 一番喜んでい
るのは近藤先生です
(手前)

います。記憶に新しい平成19年
の秋田わか杉国体、平成20年は
6月に天皇 皇后両陛下を迎え
て北秋田市内での全国植樹祭、8
月に秋田県立大学を主会場とし
た農業農村工学会大会、10月が
秋田市で全国土地改良区大会が
ありました。我が同窓生も各種
大会で活躍したほか、秋田県支
部でも工学会の歓迎行事として
三沢真一教授はじめ学生の皆さ
んと交流会を開催し、秋田のお
酒や郷土料理を味わいながら楽
しく情報交換させていたくださ
りました。また、平成21年9月には秋
田大学で園芸学会秋季大会が開
催されます。支部一同、万全の
体制でお迎えいたしますので、
どうぞ秋田にいらしてください
い。お待ちしております。さて、
平成20年度の秋田県支部活動
は、去る6月28日秋田キャンッ
スルホテルでの総会、12月6日に
忘年会を行いました。総会では、
秋田名物?のピアガーデン水着
ギャルが会場に乱入、ビール注
ぎサービスがありました。この
ためか、同窓会会員にお子さん
がで、無事元気な男の子が誕

生、秋田県農業の担い手として期待されています。今後も、会員および家族、地域の絆に波及効果が期待できる支部活動を楽しみ開催してまいります。

生駒 隆一（昭61農化）

◆福島支部

十一月の吾妻の連山には白雪が輝き、雪国の冬の訪れを告げる吾妻おろしの北風が吹きつけています。

去る平成二十年六月十四日、福島県同窓会総会が郡山市・ホテルプリシード郡山で開催されました。

福島支部は平成七年五月に設立され、会員数は一六七名で、設立当初の毎年開催から隔年開催になり、この度何年か振りの開催となりました。

会長に高久英昭（農5回）庶務に澤田吉男（農29回）を選出し、支部活動を展開することになりました。県内各地より十五名の会員の参加をみることででき、旧交を温めました。

支部会員の内訳は、公務員55%、会社員21%、教員6%、その他17%など事務局から近況報告が行われ、その後の懇親会では、年長組から順に自己紹介があり、仕事のこと、家族や趣味の世界の広がり、学生時代の懐かしいエピソードなど久し振りの再会から、若き日の昔話に花



の再会から、若き日の昔話に花

が咲き、心ゆくまで歓談の輪が広げられました。

次回も一層の元気を蓄積し勇躍して再会しようと呼びかけに、また集う人々への想いを胸に、支部総会を終えました。支部活動の一層の高まりを祈年しながら。

高久 英昭（昭32農）

◆長野支部

例年、総会を兼ねた同窓会は秋に開催していましたが、昨年十月十七日、役員会を開き、趣向を変えて二〇〇九年（平成二十一年）二月七日に開催することになりました。そこで、今号はこれまでの状況をまとめてみました。

長野県支部の発足は一九九六年（平成八年）以来、毎年一回、総会を兼ねた同窓会を開催してきました。最近では二〇〇七年（平成十九年）九月に開催し（写真）、回数は十一回、発足式を含め第十二回目となりました。しかし、参加者はいつも常連の会員が多く、新規の会員の出席が少ないのが現状です。会合も数年ごとに母校から先生をお招きし、工夫をしていますが、なかなか出席者の向上に至っていません。如何にして参加者を多くするかが今後の課題となっています。

現在、長野県支部の会員は約一五〇名。会合への参加状況は、最高の時で十八名。目標を



二〇名にしていますが、例年十五名前後で低迷しています。これまで十二回の会合で、一回以上参加した人は四三名。開催案内通知を出して、回収率は約60%です。

折角、母校から同窓会支部活動費をいただいているのですから、会員の皆さんにもっと母校への愛校心と仲間との絆を大切にして頂ければありがたいです。

松坂 賢（昭41農）

◆富山支部

平成二十年七月二十五日に生産環境科学科の三沢眞一教授をお招きし、総会、懇親会を開催しました。

当日は、50名の会員が出席して、盛大に開催することができました。

三沢先生からは「少子化が進む中で、農学部が受験生を確保するため教員が高校に出向いて出前講義や学部説明を実施している」など近年の学部の取り組みを紹介いただきました。

河渡キャンパスで過ごした団塊の世代の会員には隔世の感があります。それぞれの古き良き学生時代に想いを馳せ、先生のお話をお聞きしました。

最後には、恒例となった農学部学生歌を全員で肩組み、声高らかに歌い、楽しいひとときの終わりにしました。

支部会員については、平成十九年度会員も含め、371名の登録があります。



氏にバトンタッチされ、嶋倉前支部長には支部活動に多大な貢献をいただき、会員一同心より御礼申し上げます。今後とも支部顧問として指導、助言をいただくこととしていきます。

中山支部長を中心に富山支部の会員が拡大し、支部活動が永続的に継続できるよう、役員一同心新たにしております。

現代の若者気質が変化し、携帯電話やパソコンと向き合い、文字でコミュニケーションをとる時代、いつまでも富山支部において飲みニケーションで世代を超えた交流を続けていきたいと考えています。

小林眞一郎（昭53農）

◆福井支部

福井支部は、冬の味覚の王者「越前がに」が解禁となつて間もない11月12日、福井市内で県内在住の同窓生16名（うち女性1名）が集い、「福井松涛会」の総会を開催しました。

まず、日下博幸氏（S49林学）から昨年7月、新潟市で開催された同窓会の総会報告があり、引き続き行われた懇親会では、北岡欣一会長（S43農業工学科）の挨拶の後、千田秋廣副会長（S44農業工学科）の乾杯で開幕。最初はやや緊張した中でのスタートでしたが、酒が進むに従

い二十歳前後の青春時代を過ごした第2のふるさと「新潟」にタイムスリップして、河渡や五十嵐キャンパスでの学生時代のことなどに思いをよせて、とても和やかな雰囲気になっていき

ました。

出席者からは、「今年6月に福井市一乗谷朝倉氏遺跡で開催される第60回全国植樹祭のPR（S49林学）や「昨年11月、福井市で開催された農業農村工学会京都支部大会で、大学の有田先生や三沢先生に会えて懐かしかったこと」（H17生産環境科学）、「今日の会に来て、自分の所属する事務所の所長が大学の先輩であることが分かり、ビックリしたこと」（H5林学）などの近況報告がありました。

4時間以上となる熱心な総会（懇親会）でしたが、最後に橋本孝一氏（H45農業工学科）が次回の再開を期して総会を締め、散会としました。

普段の生活を離れて、新潟大学農学部という繋がりでこうして集い、酒を酌み交わすことができるってすばらしいことだと感じました。また今回の総会では体調を崩されて出席できなかった方もあり、日頃の健康管理を痛感しました。本支部も今年で25周年を迎えます。

次回も同窓生の皆様にご出席をいたたくよう活動をして参りたいと思っております。

仲谷 傳次（昭53農）



職場紹介

佐藤食品工業株式会社

渡辺 今日子(旧姓 佐藤)(平2農化)

沿革

佐藤食品工業株式会社は、包装餅と包装米飯を主力商品として製造販売を行っています。昭和25年白玉粉の製造で創業、36年には本社を現住所(新潟市東区宝町)に移して有限会社佐藤食品工業所を設立、39年より包装餅の製造販売を開始しました。その後、昭和63年包装米飯の製造販売を開始、平成13年には東京証券取引所市場第一部へ上場し、現在に至っています。

【サトウの切り餅】

昭和39年の包装餅製造開始より、餅は元来カビが生えるもので長期保存は不可能という常識を打ち破り、殺菌方法と包装資材の改良を重ね長期保存可能な通年商品へと育てて



【サトウのいんげん】

包装餅に次ぐ第二の基幹商品として開発された「サトウのいんげん」は、包装餅製造で培った無菌化包装の技術を応用して昭和63年発売されました。発売当初こそ、苦戦を強いられたものの、電子レンジの普及に後押しされ、「玄関開けたら2分でごはん」のCMフレーズと共に市場認知を得てきました。現在は、各県の銘柄米毎の商品をラインナップし、サトウ独自の微

きました。中でも昭和48年発売の餅3個を包装し加熱殺菌した「サトウの切り餅」は、当時の人気歌手・西川峰子を起用したCM「サトウの切り餅♪あ、モチモチ、モチモチと♪」の効果も相まって、1年の保存期間とコンパクトな包装で消費者の支持を得ました。さらに昭和58年業界初の生餅を一個一個無菌的に包装した「サトウの切り餅 つきたてシングルパック」を発売、加熱処理なしで長期保存可能な餅を商品化、平成15年にはこの餅ひとつひとつに切れ目を入れ、焼いた時にきれいにふっくら焼きあがる加工を施し、さらにおいしく、さらに便利に機能向上を進めています。

生物制御システムと圧釜炊飯ではん本来のおいしさや銘柄米の特長にこだわった包装米飯製造技術を追及しています。



【当社の新潟大学農学部出身者】

昭和54年より理論的に技術向上を図る目的で新潟大学農学部出身者が採用され、社内開発部研究室が設立されました。その後も継続的に新潟大学農学部出身者が入社し、餅並びに米飯の無菌化包装技術の確立、向上に大きな役割を果たしてきました。

現在、約360名の正社員中、新潟大学農学部出身者は11名です。いずれも開発部研究室配属で入社しており、入社3年目の新人から25年を超えるベテランまで幅広い世代のスタッフが働いています。開発部については、部長を含め研究室総勢14名中7名が新潟大学農学部出身者です。他4名は研究室から、米飯工場品質検査室、本社管理本部などへ異動し、研究開発で養った高いスキルを基に配属部署の要としてそれぞれ活躍しています。

アグリビジネス創出フェアでの研究展示

アグリビジネス創出フェア2008(主催・農水省)が、10月29、30日に東京国際フォーラムで開催され、応用生物化学科教員が研究展示を行いました。このフェアは、農業・食品に関する研究開発の成果を発表するとともに、情報交流の中から新たなビジネスへと発展させることを目的としたもので、今年が第5回となります。農業、食品関係者のみならず、一般公開されています。

出展者は年々増え続け、今年は43大学、民間企業114社、公的研究機関等の合計211機関の展示発表が行われ、参加者は1万人以上と盛況でした。このフェアで新潟大学の新たな食品分野の取り組みを紹介するため「新潟大学地域連携フードサイエンスセンター」の名の下に、次の3展示を行いました。

- (1) 「産学官連携による新潟大学の食品研究の展開、及びセンター紹介」門脇センター長
- (2) 「超高温処理による食品の研究開発」西海准教授及び山本特任助教
- (3) 「食肉の品質評価への味覚センサーの応用」筆者

当ブースには1000名以上の来訪を頂き、多くの収穫を得ることができました。また官公庁や企業等で活躍している農学部同窓生からも多数の来訪を頂き、有意義な情報交換ができました。御礼申し上げます。

このフェアの様子は、次のHPにて公開しています。

<http://www.agr.niigata-u.ac.jp/food-sci/>
(フードサイエンスセンター
事務局担当 藤村)



「特」集 朱鷺の舞う佐渡からのメッセージ

「新潟大学超域朱鷺プロジェクト」の発足

生産環境科学科教授 箕口秀夫

昨年9月25日、27年ぶりに佐渡の空に10羽のトキが羽ばたき、とりもなおさず日本におけるトキの野生復帰が大きな一歩を踏み出しました。それに呼応し、地域に根差す大学として、新潟大学超域研究機構の研究プロジェクトで、朱鷺をシンボルとした自然再生と地域創りに関する総合的な研究のプロジェクトを立ち上げました。

本プロジェクトの礎として、これまで農学部、ならびにフィールド科学教育研究センターが精力的に活躍してきた本学地域貢献事業「トキ野生復帰プロジェクト」と、環境省地球環境研究総合推進経費「トキの島再生プロジェクト」がありま

す。このふたつのプロジェクトを軸としつつ、本プロジェクトを全学的な取組としていくため、プロジェクトの統括リーダーとして本学特任教授に山階鳥類研究所の山岸哲所長を招聘し、プロジェクト組織を構築しました。

モデル「佐渡モデル」になりま

演習林の現状と将来像

— 佐渡から世界へ —

フィールド科学教育研究センター
森林生態部佐渡ステーション(演習林)

教授 崎尾 均

新潟大学演習林は一九五五年に設置されてから五十四年にな

る。佐渡島の大佐渡山地の尾根に沿いに五百坪の森林があり、これまで学生実習や研究に利用されてきた。林業の実習で苗木の植え付けや下刈りで汗を流された方も多いと思う。昨年も六月から九月まで砂防・林道・環境・育林など森林関係の専門実習の他、農学部学生だけでなく他学部の学生を対象とした実習も行ってきた。

これまで演習林は佐渡島の人

にもそれほど知られていなかった。しかし、一昨年、写真集で有名になってから訪れる人が激増した。大学の職員では対応しきれずに観光協会と連携してガイドを養成しエコツアーを開始した。演習林の管理方針も作成し、保全を基本として年間入林者数の上限も設定した。しかし、演習林の一般利用に関しては解決すべき問題が山積している。

この演習林にはスギやヒバの天然林、広葉樹二次林、スギの人工林があるとともに、千二百年前から、林間放牧によって維持されてきた大倉シラバのような草地もあり、多様な生態系が保全されてきた。

J A 佐渡専務理事

前田 秋晴 (昭54農)



25日、昨年9月27日、10羽のトキが佐渡の大空に飛び立ちました。待ちに待った歴史的瞬間であり、その場に立ち会った島民千五百人が見守る中での新

な1ページの幕開けでもありました。

佐渡市はこの慶事に照準を合わせ、トキとの共生のできる「環境の島」を標榜し、多くの取組みを進めてきました。特にJ Aとの一体的取組みで進めてきた佐渡産コシヒカリの「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」は、トキの棲める環境づくりに貢献すると共に、厳しさを増す米販売環境にあつて、他産地が苦戦を強いられる中にあつても好調な売れ行きをスタートさせることができました。

これは生産者や生産者団体・行政、そして大規模量販店の「こだわり戦略」とも呼ばれ、トキの野生復帰を中心据えた、まさに島を挙げての取組みでありました。

これから続く一連の取組みの第一歩にあたり、佐渡の野山にトキが定着できるよう強く期待すると共に、それが可能となる自然や人に優しい環境の島の実現、そしてこれらを契機に佐渡の活性化の一助にならんことを期待して止みません。

佐渡で働くことについて

生産環境科学科 安藤 朗



今回、私はJ A佐渡という会社で就職することになりました。

の会社を選択した理由としては、出身が佐渡であるため地元での発展に貢献したいというものと、この四年間生産環境科学科で勉強したことを生かしたいと

思ったからです。このような理由でJ A佐渡を職場に選びまし

た。J A佐渡は営農に始まり、金融や旅行業なども手広く行い、佐渡島民の生活を支えています。しかし、J A佐渡の地元の人に話すとい就職とは必ずしも言われません。これはJ A佐渡という会社に対する否定的な意見というよりも佐渡島民の意識には島外への憧れがあり、そのため島内での就職に対してネガティブなイメージがあるからで

す。実際、高校時代の同級生の半分は島外に就職しました。私も高校時代ぐらいまでは島内での就職に対してはあまりいい印象はありませんでした。

しかし、大学に入り農学部の授業を受けていると、良く佐渡について触れることがありました。その度に佐渡のよさについて再認識することができ、これが佐渡で就職することにつながったのだと思います。

これは大学の授業の実習で集落点検に行ったときのことですが、そのときの実習を担当した先生が「集落を見てよいところがあったら、地域住民にそこをほめなさい」と言っていました。そうすると、外からはめられたことによつて地域のように思ふようになります。

私は、この四年間新潟大学で過ごすことによつて、佐渡を外からの目線で見ることができました。J A佐渡で仕事を始める際には、この目線と長年佐渡で過ごした感性の二つを持って、粉骨砕身地域住民に尽くしたいと思ひます。

「特集」

新潟大学祭の一環

「中越大震災復興集落との交流企画」

晴天に恵まれた平成二十年十月二五日(土)、新潟大学農学部を会場に、新潟大学農学部・災害復興科学センターは、中越大震災から四年が経過した中で、新潟大学祭の一環で、集落復興の思いを共有し、情報を発信するために、交流企画・シンポジウムを開催しました。参加した復興集落は、新潟大学農学部と交流のある長岡市山古志地区虫亀、同市小国地区法末、小千谷市若柝、同市棚田を守る会、川口町武道窪、同町木沢、魚沼市広神地区越又の7集落です。

第一部

農産物など元気に 取組成果を通した 集落紹介

午前十一時

農学部前のロータリーにテントを張り、各集落自慢の農産物(コシヒカリ、野菜)や加工品(漬物やちまき、かぐらなんばん味噌)などが、販売されたり、炊きたてご飯やお汁などがふるまわれしました。また、わら細工などの体

験や神楽などの伝統芸能を披露し、震災復興集落と学生、大学関係者、地域住民が交流し、楽しいひとときを過ごしました。

ここで、目立ったのは各集落の応援隊としてサポートした農学部を中心とした学生達です。若い大きな声で、農産物を販売したり、わら細工の体験学習に積極的に参加したり、年輩の復興集落の皆さんも学生達の若さと元気をもらい、にこやかに大学祭に参加していました。

第二部

再建への歩みと魅力ある集落への想 いを語る

午後一時三時半

午後からは、会場を農学部三階三九四教室で、シンポジウムが開催され、地域住民、大学生、大学教員など100人以上が参加しました。

集落の復興に向けたそれぞれの取組について、七集落の代表が震災からの復旧そして復興への取り組みを報告しま

「写真・新潟大学災害復興科学センター 鈴木幸治氏提供」



した。

【長岡市山古志地区虫亀集落】
(多菜田会)
まだまだ復興は遅れているが、虫亀は花の沢山ある集落であり、仮装盆踊りの復活や蕎麦づくり、史跡の見直しを進めている。

皆さんからの支援に感謝するため、地域では元気な赤ちゃんたちをみてもらいたいと考えており、震災を契機に直売所経営に乗りだしている。是非、おおぜいの皆さんから来て頂きたいと、現在、食堂兼直売所の開設に向けて取り組んでおり、十二月中旬に新装開店を予定している。

【長岡市小国地区法末集落】
被災当時、集落外に移住す

ることしか考えていなかった。その後「法末集落を守らなくてはならない」という機運が高まり、集落の宝(魅力、資源)を調査・研究し、地域復興を始めている。(ホテルの復活、昔の手掘り隧道の活用(こうもりの館)、炭焼き釜の余熱利用(足湯)、天体観測、山菜料理など)

【小千谷市若柝集落】
(わかとち未来会議 H18・2設立)
震災を契機に早稲田大学との交流が始まった。伝統料理、民芸づくり(人をひきつける魅力づくり)、歴史探訪、語り部などに取り組んでいる。

【小千谷市吉谷集落】(小千谷市の棚田を守る会 H17・8発足)
平成十七年四月NHK放送の震災復興の番組を見た関西在住の五藤氏が小千谷に駆けつけ、同会の発足につながった。田所有者が稲作を再開するまでの間、ボランティアによる稲作等の維持管理を行っている。

【川口町武道窪集落】
震災を契機に法人(グリーンファーム武道窪)を設立し、特別栽培農産物認証制度6・7ha作付け、十九年から友好都市の東京都狛江市限定の水田オーナー制度を始め、田植

え、稲刈り交流に取り組んでいる。

【川口町木沢集落】(フレンドシップ木沢)
田んぼができなくなってお年寄りに元気がなくなつたことから、中越大震災復興基金等で田を復旧した。「みんなが住んでみたいと思える村にしたい」という目標を掲げ、その取組の一つとして閉校された学校の施設を宿泊施設にしたいと頑張っている。

事例発表を受けて、主催者を代表して伊藤忠雄農学部教授から、集落の活性化・復興には物語、地域のまとまりが重要であり、その力を引き出すにはコーディネーター力が必要である。また、地域資源にどう着目するか、構想力が重要である。震災地域には、文化の土壌があり、伝統の力で復興できた。震災から四年が経過したが、震災を風化させてはいけない。そのためにも、大学と地域のつながりを継続していききたいと力強く提案した。

後日談…その後、震災復興を支援している農学部を中心とした学生達二十数名は、今回参加した七集落の八番目のサポーターを目指して、自主的に「越後八」というサークルを立ち上げましたのでご紹介します。今回の交流企画に参加し、農学部の学生達の素晴らしいエネルギーに深く感銘しました。

ベニシ 同窓生からのたより

御無沙汰致しております

夏目 秀彦 (昭54農化)



私は昭和54年農芸化学科を卒業し、前回登場された丸山一郎さんと同じ東大の応微研へ入学しました。縁あって医学部へ進み、現在は開業し、内科で糖尿病と甲状腺疾患を専門として医療に従事しております。

基礎研究をしていた時と臨床の場で変わらないうとして感じるの、素直にものをみていると、わからないものが自然に向うから問いかけているということですね。

東大では、リンゴ腐乱病を研究しておりました。従来は菌が微量で強い毒素産生により樹木を枯らすと考えられておりました。青森のリンゴ園で実際に罹患している樹木をみると、急激に進むのではなく、長期にわたって確実に進行する感じでした。何か樹木の成分を菌が分解し、毒に変換していくのではないかと考えるようになり、宿主依存性

毒素という概念を提唱するに至りました。

今回は患者さんの色々な訴えを聞き、どこに原因があり、縁あって結果として現れるのかということに集中しております。

今回は難しい事は字数に制限がありますので、省略させて頂きます。病気の前に人を見て治療するという気持ちでやらせて頂いております。

大学の研究は、糖尿病のインスリン分泌機構で学位を頂きました。人との出会いが面白い人生を歩ませてくれる気がします。東大の大学院時代、ある会社の慈善事業家の社長さんの御陰で無料の寮に入れ、数多くの友人を得、現在でも付き合せて頂いております。次回は農化の同期の宮内聡さんに登場して頂きます。

.....

追い風？

向かい風？

平野 孝 (昭58農)

私が農業の現場を仕事として、17年が経ちました。農協を辞めて仲間と農業の会社「カガヤキ農園」を立ち上げたのが、昨日のようです。ところがこの地域では、20年前に50歳の働き盛りの人も、今は

70歳です。一人欠け、また一人欠け。農業者で残っているのは、年寄りだけ。誰がこの先、米を作り、畑を守るのか？新潟市内でも、この有様です。米は我々のような会社ですが、大規模に栽培できるのですが、問題に儲からないことです。もつと深刻なのが野菜です。

「大根・白菜は重くてもう作れない」「どうせ1本100円では」「地産地消が叫ばれて10年以上経ちますが、現場の人間は年をとるばかりで、会社を辞めて野菜作りを始めたなんて、聞いたことがない。」

さてそれでは農業が儲かっていないかという点、そうでもないかもしれません。きつち黒字の農業もあります。時代の流れに乗って、自分で売り切っている人。この人のトマトではないと食べた気がしないという、大勢のファンを持つっている人。各地の直売所で1人500万も売っている母ちゃん。などなど.....

便利になり、インターネットで見ず知らずのお客様から注文が入り、採れたてトウモロコシを翌日に届け、代金はコンビニでお願いします。信じられない！でもこれが今

トで見ず知らずのお客様から注文が入り、採れたてトウモロコシを翌日に届け、代金はコンビニでお願いします。信じられない！でもこれが今



どきの農業です。パソコンが必需品となったのは10年前。今は1人1台です。時代の流れは速くなるばかりで、昔には戻れません。

年男の私が、今気になるのは子供の教育費と健康のこと。メタボにはなりたくないけど、おいしいものは食べたい。「もう肉より野菜だよ」と言いつつ、村上牛は捨てがたい。休肝日は週2日。日々葛藤の連続です。しかし、この葛藤はとっても贅沢かもしれません。現場には、作る人がいません。もう10年しか、日本の農業はもたません。

そこで誰でもできることは、「買え支え」です。なんでもこんなに安いのだろうか。考えてみて下さい。少し高いけど国産。手にとつて下さい。太るけど、余したるもつたない。食べて下さい。出来ることを、今日から始めてはいかがでしょうか。そうそう今年にはチェンジの年でしたね。

略歴 S58年農学科作物学教室卒業。卒業後青年海外協力隊として2年間アフリカに暮らす。帰国後横越農協勤務。現在カガヤキ農園にて働いています。

略歴 S58年農学科作物学教室卒業。卒業後青年海外協力隊として2年間アフリカに暮らす。帰国後横越農協勤務。現在カガヤキ農園にて働いています。



仲間たちは今

武島 三朗 (平5農工)



① 近況報告

大学を離れて、はやいもので十五年。私は、住宅メーカーに勤務しております。自分の家が欲しいからとの単純な考えで入社し、3年前にその目的を達成し、妻と5才の長女、1才の長男と4人で、さやかな家庭を築いております。

仕事の住宅建築は、家庭の様々な要望を形にする仕事の為、連日連夜設計打ち合わせなど大変な仕事ではあります。が、完成後の御家族の笑顔をみるたびに、充実感で癒されております。新潟県では、中越地震、中越沖地震、三条の水害等、数々の大災害に遭い、

より安心、安全を求めるのと同時に、環境問題に取り組んでいかなければならない時代であります。そんな中、自分の仕事に、自信と責任を持つて日々邁進しております。

② 趣味・熱中していること 下手の横好きですが、ゴルフに熱中しております。天気や道具のせいにしてばかりですが、日常体を動かす機会も少ないことから健康の一環としております。庭に芝を植え、石川遼君や藍ちゃんの様にな

下手の横好きですが、ゴルフに熱中しております。天気や道具のせいにしてばかりですが、日常体を動かす機会も少ないことから健康の一環としております。庭に芝を植え、石川遼君や藍ちゃんの様にな

れ！と、子供達と遊んでおります。

③ 最近感動したこと

震災の救助物資をトラックで配送した時、小さな子供やお年寄りまでバケツリレーの列を作り手伝う姿を見た時。市民の連帯感を感じ、復興の為、自分に何ができるかと考えさせられ、涙しました。

④ 学生の皆様にに向けて

学生時代に知り合った先輩や友人が今でも自分の財産です。是非、様々な人たちと交流を深め見聞を広めて下さい。また、人に自慢できる特技・趣味を何か一つ持つこと。社会に出て必ず活かしてくると思います。

⑤ 次回の執筆者の紹介

堀田善之さんにお願いたしたいと思います。彼は、人間力に溢れ、私に無いものすべてを持ち合わせている人です。

.....

火の国熊本から

星野孝次（平18動物生産）



皆さんこんにちは。早くも大学院を卒業し、1年が経とうとしております。卒業式が終わり、最後の学会発表を終え、その後、明治製菓に入社いたしました。入社後の1ヵ月間は神奈川県で研

修を受け、84名もの同期社員と共に生活しました。そして5月の大型連休明けから、各赴任地へ赴任するという具合です。私の場合は、明治製菓の生物産業界事業、動植物飼料部、動植物飼料部に配属が決まり、5月の連休中に引越越しを済ませ、熊本での初めての一人暮らしを始めました。業務内容は、営業が一番の業務になるのですが、その他にも担当県の卸店管理（私の担当県は熊本県と大分県で、8卸店を管理。その中の1卸店は本部担当兼任）、や社内の事務処理が多数あり、今でも時間が足りない忙しい日々を送っています。特に私のいる動植物飼料部は、売上高の割に人数が少ない「少数精鋭」を目標としており、個人の仕事量が非常に多いです。そのなかで学生時代と大きく違うなと感じたところは、責任感です。自分自身がどれだけ責任感を持たずに学生生活を送っていたのが、身に沁みてわかりました。

さて、私の住む熊本市についてお話ししたいと思います。熊本市は、周りを山々に囲まれた盆地になっており、夏は非常に暑く、冬は最低気温が氷点下になる非常に住みやすい市です。新潟市同様、周辺町村と合併し、政令指定都市を狙っています。私は市内のほぼ中心部に住んでおり、熊本城まで歩いて10分程度です。阿蘇まで車で1時間、天草まで車で3時間といった感じです。観光には非常に良い

ところだと思っています。熊本県はスポーツが盛んで、プロゴルファーの上田桃子や不動裕理、柔道の山下泰裕や内柴正人などが熊本出身です。その他におバカキヤラで有名なスザンヌ（母親経営のキャサリンズ・バーがあります）、芸人のくりいむしちゅー、歌手の八代亜紀や水前寺清子な

《第14回》

農学部フォーラム、農学部で開催

第14回農学部フォーラム実行委員長 新美芳二

第14回農学部フォーラムが12月6日（土）に農学部で開催され、一般市民などおよそ90名が参加した。今回は、「在来品種およびブランド品種を利

用した地域の活性化を考える」のテーマで講演が行われた。江頭宏昌氏（山形大学農学部）は会員400名からなる山形在来作物研究会（<http://samidare.jp/saisa-kukun/>）で活躍されてい



る。在来品種が果たす役割として、まず、歴史性がある。山形特産のダダチャ豆は新潟から庄内に伝えられ、その後大正時代に新潟へ戻り、山形と新潟で産地形成された。また、山形県内の在来力ブは、凶作のときお盆過ぎに種を播くと秋に収穫でき、コメとカブの飯を炊けば凶作年をしのげるとして、受け継がれてきた。このように在来作物はその地域の歴史と文化に深く関わっている。つぎに、在来作物は、観光

ど、多く有名人が熊本出身です。熊本で仕事をし始め早くも8ヵ月が過ぎました。仕事はまだ不慣れで、迷惑ばかりかけておりますが、自らの営業スタイルというものを構築し、九州の地で大きな人間になればと考えております。

資源として魅力的であり、前述した在来作物がもつ歴史性をセッティングして宣伝するとさらに魅力が増す。祖父母が孫の喜ぶ顔が見たさに在来野菜をつくるが、孫にも栽培を見せれば、世代間の交流が進むよい機会である。もちろん、在来作物がもつ歴史性も教えるので食農教育としてこれほど優れたものはない。高畑義人氏（岩手大学農学部）は、全国のリンドウ生産の7割をしめ、オランダへ輸出するまで躍進した岩手県リンドウ生産とその発展経緯について講演した。氏によると、リンドウのF1品種化に成功したことが、これらの品種を栽培時期が競合しないニュージールランドへ出して、品種栽培許諾料を取るとともに海外進出への足がかりとノウハウを得たこと、それを生かしオランダへ空輸する技術（箱詰めや水揚げ）やコストの問題を解消したことが、リンドウの品種改良を行う有限会社を町と生産者で作ったことなどから高品質低コスト生産に徹し、現在の岩手県リンドウの地位が得られた。岩本嗣氏（新潟大学農学部）は、細胞融合によって青枯病に抵抗性のナス台木品種育成し、大阪特産の水なすの安定生産技術を確認した。岡崎桂一氏（新潟大学農学部）は、これまで不明だったダイウインハイブリッドチュウリップの起源を解明したほか、2倍性花粉を誘導するまったく新しい方法を紹介し、チュウリップ育種の新しい

い方向性を示した。小野長昭氏（新潟県農総研園芸研究センター）は、本県には、いちご（越後姫）、えだまめ、西洋なし（ルレクチエ）、ユリ切り花など他県と差別化できる品目が多数あるほか、ユニークな在来品種も多い、これらを用い新しいオリジナル品種を育成することは、今後、産地間競争に打ち勝つため極めて重要であると発表した。

今回のフォーラムで、地域特産物が、地域文化の伝承、

食文化の多様化、産地間競争力の強化、観光産業への寄与など多方面で役割を果たしていることが分かった。また、地域特産物の育成には、新品種の育成のための新しい技術や遺伝資源をもつかどうか、生産組織を運営するキーパーソンやキー組織の有無、生産から流通までの各段階で生産振興上問題点を洗い出し解決策を講ずることができるとかどうかなどが重要であることが分かった。

第一回農学系学部学生国際シンポジウム(IASS)参加報告

農業生産科学科 新 美 芳 二

標記シンポジウムが、一日から三日まで十日間、マレーシア・クアラルンプールのプテュラ大学で開催され、農業生産科学科三年生の女子学生三名が参加しました。これは、本年度から実施された新潟大学国際交流委員会事業「学生海外実習等プログラム支援事業」に学生が応募し、その援助を受け、参加しました。二名の発表課題は、

(1)佐渡・岩谷口集落の現状、
(2)市民と有機栽培農家との交流の紹介、
(3)海洋深層水の野菜栽培への利用、でした。学生が参加するにあたり、このシンポジウムが初めてのものであることから、大山農学部長ならびに農学部国際交流委員会から当該学科長である私

（新美）に同行するように要請があり、私も参加した次第です。以下に私がシンポジウムの全体的様子を報告し、そのあと参加した学生の感想を紹介します。

このシンポジウムは農学系学部学生のみを対象とし、テーマは「農業・未来に向かつて共有し、協力しよう」でした。プテュラ大学九〇名を含め、マレーシア、インドネシアやタイの大学、新潟大学および「農業及び関連科学の学生国際協会（IAAS）」の学生国際協会（IAAS）から総勢約一四〇名が参加しました。シンポジウムの内容や周到に準備された様子に驚くばかりでした。とても学生だけで準備したと思えなかつたため、大会実行委員長や他

の委員に尋ねたところ、開催までの準備、シンポジウムの司会、見学会やそのほか諸々のこと、また開催中に講演をした農林次官や文部次官への交渉、スポンサー交渉などすべてを実行委員会学生がお互いに手分けをして行ったとのことでした。

シンポジウム発表会の司会もすべて学生（おもに三年生）が行い、その進め方もすばらしく、我々が参加する国際会議に決して劣ることなく、むしろ優っている部分さえありました。そのすばらしさ、たくましさは唯々感心するばかりで、日本の学部学生が果たしてこのようにシンポジウムを組織できるであろうか、と心配になりました。また、シンポジウム参加者は発表者の講演が終わるやいなや我先に発言を求める姿を見て、我々大人を含む日本人学生と彼らとの違いを嫌というほど見せつけられました。現在の日本の大学教育をさらに向上させるための課題は数多くあるが、国内のみならず国際舞台でも活躍できる人材を育成するためには、課題を積極的に実行して発言するトレーニング、そしてその成果や疑問点等を日本語のみならず英語で発表して渡り合える英語会話能力向上のためのトレーニングが不可欠である、とこのシンポジウムを参観して感じました。このことを我々に知らしめた本大会は、本学から参加した学生と私にとって大変有意義であったといえます。



前列3名が本農学部から参加した学生。後列3名のうち、向かって左が新美およびマレーシア・サバ大学から参加した学生。

以下に参加学生（五十音順）の感想を原文のまま紹介します。

(1) 個人的に、率直に、今回のシンポジウムへの参加の経験を話すのであれば、「一生の恥と一生の出会いを同時に味わった10日間」と言える。自分がconferenceで発表した時のことは、あまりにも緊張して覚えていない。しかし、10日間濃密に同じ農学部でありながら異国の学生と会話し、笑い、食事をし、discussionをし、最後には泣いて別れた思い出は、本当に「宝物」と言う他ない。

(農学部農業生産科学科3年 坂 牧 光 恵)

ムは、発表会だけでなく、様々な施設の見学、観光名所や夜のチャイニーズ市場に行くなど、朝からも夜まで毎日盛りだくさんだった。私の宿舍の相部屋は、インドネシアの学生で、学生同士が交流しやすい環境だった。また、食事や日々の生活において彼らの細やかな配慮を感じた。彼らのシンポジウムに対する熱い思い・努力、そして優しさには本当に感動した。日本にインドネシアやマレーシアの学生を呼びたいと思った。

(農学部農業生産科学科3年 円 谷 祐 未)

(3) 小さい頃からあこがれ続けていた熱帯地域でシンポジウムが開催される。その話を聞いた瞬間、このシンポジウムに申し込んでいました。空港を出るなりヤシの木があるなど、日本との植生の違いに大いに感動しました。

マレーシアの学生は複数の言語に精通していたり、異なる宗教の人々が当たり前のよう共存していたりと、文化の違いを感じることができました。

私にとって初めての海外だったのですが、このような形で訪れることができて本当に良かったです。

(農学部農業生産科学科3年 丸 山 令 子)

学部だより

新任教員紹介

農業生産科学科

教授 高田 良三



平成二十年四月一日付にて着任しました。愛知県出身で、その後静岡、茨城、熊本、茨城と移り住んできました。これまで新潟とは全く縁がなかったのですが、一年ほど前に学会で新潟を初めて訪れ、さらに研究では飼料米に興味を持ち、気がついたら新潟大に着任しておりました。

これまでの仕事は豚を中心にした飼料栄養の研究で、農水省の畜産草地研究所で長く働いていました。昨今の飼料価格高騰でこれまでに効率的な飼料の開発が求められており、また地球温暖化の進行による家畜生産性低下に対しても飼料栄養面からの貢献は重要です。これらの研究課題は現場に密着した、いわゆる泥臭い（本当に臭い）仕事のように見えますが、実は

ベースにはきわめて基礎的な自然科学の現象が隠れています。このように応用面だけでなく基礎的な側面も含めた研究を若い学生と一緒にやっていくつもりです。今後ともよろしくお願ひします。

農業生産科学科

准教授 渡辺 肇



「宝物」の語源は、「田からのもの」「つまり「田から採れるもの」という説があります。私は、平成20年1月1日に作物学研究室に着任しました。田から採れるもの、つまり作物を対象とする研究室で仕事ができる喜びを感じています。東北大学で10年程、主に水稻の省力、低コスト、高位安定生産、環境保全型農法の研究を行い、同時にそれらの技術の生物学的基盤を形態学・生理学的に検討しました。新潟県は、温暖、多日照、肥沃な土壌、豊かな水資源があり、作物生産がとて盛んです。新大では、この恵まれた自然条件の下で食料の安定供給・環境保全・資源循環を指向した栽培技術

の研究ができればと考えています。作物栽培では、播種から収穫まで多くの人々の協力を必要とします。教育・研究においても、多くの学生さんや先生方のご協力を得ながら展開することができたらと考えています。

応用生物化学科

教授 大坪 研一



平成二十年四月一日付にて着任いたしました。出身は大分県で、東京、埼玉、茨城等を経て、新潟県に参りました。この三月まで、つくばの（独）農研機構・食品総合研究所に勤務しておりました。その間に、平成二年から五年までの三年間、上越市の北陸農業試験場に勤務し、新潟の多くの方々

と知り合う機会を得ることができましたし、四季のはつきりとした美しい自然にもふれることができました。これから

ることができました。これまで、米の品質評価や加工利用、DNA品種判別に関する研究を行って参りましたので、これから、新潟の美味しいお米とお酒を味わいながら、研究を継続・発展させることができればと願っております。今後は、これまでとは異なり、研究のみならず、学生の教育にも力を注ぎたいと考えております。

応用生物化学科

教授 小島 康夫



平成二十年十月一日に応用生物化学に北大から赴任しました小島

です。北大では森林化学を専門に木質バイオマスの成分利用、エネルギー利用について研究をしてきました。新潟では竹など未利用木質資源の利活用について研究を進めるつもりです。最近では温暖化の關係からバイオマスが注目されてきています。たくさんの方達に関心を持っていただくことは、それはそれで良い事なのですが、研究や実用化とな

ると、依然として多くの課題が残されています。バイオマスが抱える本質的な問題や、利用技術の開発など難しい問題があるのです。こうした問題を学生達と一緒に考えながら研究を進め、少しでも世の中に貢献できれば幸いと考えています。

生産環境科学科

助教 大橋 慎太郎



平成20年5月16日に着任いたしました。桜が散つて、上着が一枚少なくなったと思うのも束の間、気づけばまた一枚上着を重ねている日々。学生と共に議論を重ねているうちにあつという間に一年が経とうとしております。私は新潟で生まれ、育ち、新潟大学で学生生活を送りました。新潟の良さ所、悪き!?所をたくさん感じながら今に至りました。新潟のお米、お酒そして日本

の

海に沈む夕日が大好きです。洗濯物が早く乾かないところは気にしません。ここ新潟大学では農業環境工学を学び、地域活性化について研究を行ってきました。地域に散在する自然エネルギーを農業に利用し、農家さんたちと共に喜び、笑える日を楽しみに研究を行っております。新潟大学で育てていただいた恩返しに、少しでも新潟大学、そして新潟県を盛り上げていけるよう精進して参りたいと思っております。また、新潟大学での人材育成のためにも尽力して参ります。今後とも宜しくお願い申し上げます。

フィールド科学教育研究センター
森林生態部佐渡ステーション
(演習林)

教授 崎尾 均



二〇〇八年
四月一日に着
任し一年が経
とうとしてい
ます。大阪の

梅田生まれで、兵庫、奈良、静岡、埼玉と太平洋側を東進し、今初めて雪国に來たと思いきや、そのまま日本海を北上し佐渡島まで来てしました。埼玉県の職員として行政を五年間(造林二年、治山三年)経験し、その後二十一年

間、農林総合研究センターで森林に関する研究を行ってきました。大学は静岡の理学部でしたので、林業については就職してから現場でたき上げ、その中で林学についても学んで来ました。

これまでは、「森林学」として河川や溪流周辺の水辺林の生態や動態を研究し、「林学」として機能が低下したり、失われた水辺林の再生・修復技術の開発を行ってきました。ご存じのように佐渡島は森林から海までが数キロの距離にあり、森、川、海のつながりを研究するにはもってこいのフィールドです。これから恵まれたフィールドを生かし学生とともに佐渡から世界に情報を発信していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

フィールド科学教育研究センター
耕地主産部新潟ステーション

准教授 岩本 嗣



平成20年4

月1日に着任

しました。前

職の大府環

境農林水産総

合研究所では、バイオテクノ

ロジーを利用した地域特産野菜の品種改良に従事し、近年

は栄養成分や機能性成分に着目した品種改良を進めてきました。

新潟と大阪は距離的に遠く、気候、風土が大きく異なり、接点が少ないように思われます。しかし、北前船の寄港地として古くから人的交流が盛んで、関西から運ばれ新潟に根付いた野菜も少なくありません。大阪特産の泉州水茄子が新潟に導入され、新潟の気候と風土に適合し、黒十全、白十全として定着したように、新潟にしっかりと根をおろした研究を進めていきたいと願っています。

長年住み慣れた大阪を離れ、新潟の地で第二の人生を踏み出します。今後、様々な方々との交流を通じて、自身の研究の幅を広げていきたいと願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

農学部への動向

叙 勲

平成20年春の叙勲 伊賀上郁夫名誉教授(農芸化学科生物化学)

平成20年秋の叙勲 加村崇雄名誉教授(農芸化学科土壌学)それぞれ瑞宝中綬章を受章さ

れました。おめでとうございます。

受 賞

豊田勝名誉教授(農業工学・農業水理学)

平成20年10月28日国際水田・水環境工学会国際賞(PAWES International Award)を受賞され、台湾・台北で授賞式が行われました。

四ッ島賢二(昭和63卒)平成20年度優秀畜産技術者賞(社団法人畜産技術協会と財団法人日本中央競馬会弘済会の共催)を受賞

中野和弘教授(生産環境科学科)農業情報学会フェローの称号を受賞

学位取得

農業生産科学科関係
可知真奈美

(平15卒、平20院自)博士

(学術)(新潟大学)

松浦貴之

(平6卒、平8院農)博士

(農学)(東京農業大学)

牛山智彦

(昭53卒、昭55院農)博士

(農学)(東京農工大学)

応用生物化学科関係

枳穀 豊(きこくゆたか)

(昭58卒)博士(農学)(広島大学)

鈴木 隆志

(昭58卒)博士(農学)(岐阜大学)

豊田陽介

生産環境科学科関係

(平13卒)博士(農学)(新潟大学)

学部教員の「学会開催」
2008年度日本土壌肥料学会関東支部大会が11月29日に新潟大学農学部にて開催されました。大会運営委員長は応用生物化学科野中昌法教授で、演題数60、参加者約130名でした。

退 職

当農学部のため多大な貢献をされた次の方々が、平成21年3月に定年退職されます。

農業生産科学科

教授 新美芳二 先生

生産環境科学科

教授 竹内公男 先生

長年にわたり積み重ねてこられたご功績に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

教員 訃報

吉原一郎名誉教授・元農学部長(家畜飼養学)が平成20年10月27日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成20年度新潟大学農学部同窓会総会

小林一三前会長への感謝状授与



会場全景



農学部学生歌合唱



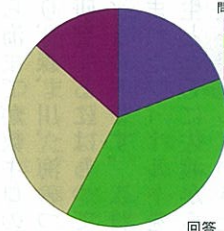
「松涛アンケート」集計結果

昨年七月十九日に開催された農学部同窓会総会にて本誌「松涛」に関するアンケートを実施しました。結果は次のとおりです。

問一 卒業年次

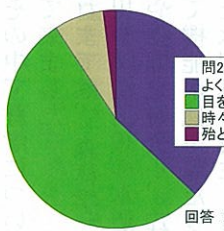
昭和三十年から平成七年卒の五二名（他無回答二名）の方から回答いただきました。

問1. 卒業年次



回答 52人

問2. 読み方



回答 54人

問二 「松涛」をどの程度読んでいますか。

「目を通す程度」が最も多く五四％でした。「良く読む」

三七％と合計すると約九割の方が読んでいると答えられました。

問三 「松涛」の発刊時期

松涛の発刊時期については、回答のあった五三名のうち五二名が現状（三月末）で良いとされ、

一名のみ三月以外という結果でした。

問四 希望する特集

各先生の研究、特許や先輩の思い出話など大学関連に五名、新潟県の酒作り、トキの放鳥など県内の話題に三名、地球温暖化、食料危機などグローバルな話題に三名および従来通り一名の計十三名の意見をいただきました。

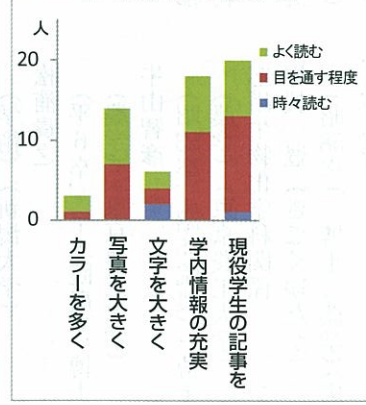
問五 取り上げて欲しい職場

コメリ、亀田製菓、明星食品など企業関係に五名、農協など農業現場関係に二名、県や市など公的職場に二名、じねんじよ会など団体に一名の計十二名より希望を寄せていただきました。

問六 編集への希望（複数回答）

最も希望の多かった項は「現役学生の記事を」ついで

問 6. 編集への希望



「学内情報」、三番目が「写真を多く」でした。いずれも読み方（問二）による大きな差はなく、全体に記事内容への希望が多い結果となりました。

問七 「松涛」への注文・意見

学生、卒業生または大学の研究や就職状況に関する情報が五件で記事内容に関する意見の大半を占めました。その他では、五十嵐キャンパス付近の飲食店の近況、名簿編集、支部活動関連、ウェブサイト化などの要望がありました。全体を通してやはり母校の近況への関心が最も高いという印象でした。今後の編集の参考とさせていただきます。最後にいただきましたが、ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

平成20年度農学部競争的研究資金等公募事業の採択状況

《文部科学省関係公募事業》

- 地域イノベーション創出総合支援事業「重点地域研究開発推進プログラム（育成研究）」
- 米タンパク質の新規機能性の解明と食品開発 門脇基二（応用生物学）
- H20年度シーズ発掘試験 機能性食品製造に利用可能なキチン分解酵素の開発 渡邊剛志（応用生物学）

農林水産省関係公募事業

- 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 アミロペクチン長鎖型の超硬質米による米粉新需要食品の開発 大坪研一（応用生物学）
- 雪室活用用の西洋ナシの追熟制御と日本ナシの長期貯蔵の技術開発 児島清秀（農業生産科学）

経済産業省関係公募事業

- 地域イノベーション創出研究開発事業（農工商連携）植物性乳酸菌を含有する機能性米の開発 原崇（応用生物学）